

## 明日へのかけ橋

追いかけても 追いかけても  
逃げていく幻像  
近づいても 近づいても  
遠のいていく幻影

それは空気中の水滴に太陽が  
斜めにさしこんだ時にできる光のプリズム  
青空に大きく弧を描いてわたる七色の橋  
虹という名の まぼろしの橋

たった一度だけ  
その虹のふもとに立つたことがある  
まわりの音は遠のき 静かすぎる時が過ぎ

ふと我に返ったとき  
かき消すように虹はなかったが  
地面が淡いオレンジ色に光っていて  
まるでUFOでも飛び去ったのかと思うような  
不思議な空気がそこにあった

人生の光と影を 行ったり来たり  
ぶらんこのように揺れながら  
今日のいのちを 人は生きる  
明日もまた 微笑むために